

「読み解く力」育成のプロセス 質の高い学習過程の構築 「読み解く目的・必要性の実感」 ↓ 「読み解く力の獲得・活用」 ↓ 「読み解き再構築したことの発信」 日常の学習指導の質を高める 「読み解く力」育成に向けた1年次の成果

- ○「読み解く力」育成を視点とした授 業改善の推進
- 〇各教科等における「読み解く力」を 視点とした付けたい力の明確化
- 〇各教科等における「読み解く力」育 成プロセスの明確化

2

「読み解く力」育成に向けた更なる 展開に向けて

- ○目的意識や必要性をもった交流を 取り入れる
- ○各教科等において日常的に子供が 学ぶ必然性を実感できる学習過程を 工夫する
- ○重点的な取組に向けたカリキュラム・マネジメントを生かす

3

1

## 子供が目的を意識できる、必然性のある交流の工夫

- ○指導のねらいを明確に把握することで、決 まり切った答えを探すのではなく、自分の考 えを創り上げられる課題を工夫する。
- ○単元全体のゴールを意識できるようにする。
- ○交流で何を求めたいのか、どんな発見を 伝えたいのかを明らかにする場を作る。

8

- ○交流でどのような発話のやり取りを求めたいのか、教材研究段階で想定しておく。
- (例)「私は、○○と考えています。わけは □□だからです。」→「わけ」が見つからない 状況の子供には対応していない。

子供が目的を意識できる、必然性のある交流の工夫

- 〇子供の目的や必要性に応じた、交流相手 やグループ編成、交流回数を工夫する。
- 〇ねらいに応じた交流形態を工夫する。
- ○交流でどのような発話のやり取りを求めたいのか、教材研究段階で想定しておく。
- ○国語科以外の各教科等の学習でも取組む。

9

○カリキュラムマネジメントを機能させる。

(例)2月上旬に国語科で研究授業を行う。当日の授業では、グループ(小学校低学年ではペア)学習を、指導のねらいに基づき、自在に展開できるようにしたい。→いつ頃までに、どのような準備が必要か?

10

15